



☆勉強をやる気がしない・・・☆

「学ぶ」こと、すなわち勉強はいくつになっても必要です。大人になっても勉強をしている人と、勉強をしていない人とでは、相当な差が出るものです。どんなに高学歴の人でも、社会人になって勉強しなかったら、過去の栄光（学歴）だけでは何の意味もありません。しかし、世の中には勉強することや本を読むこと、人に話を聞きに行くこと等を面倒だと思ふ人がいます。この前、林修先生がテレビでこんな話をしていました。予備校生が質問し、林先生がその質問に答えるという番組の一コマです。



〈質問〉「先生、最近勉強のやる気が起きないんですよ。どうしたらいいですか？」

「学校、やめちまえ！」

「君をこの学校に入れるために、君のお父さん、お母さんがどれほどの苦勞をしてお金をつかって君をこの学校に入れたか分かるか。そんなお父さんお母さんの想いも分からない奴が、この学校にいても何の意味もない。だから辞めて働け！」そしてこう続けました。「勉強ができるというのは人間がやることの中で最高の贅沢なんだ」と。

一刀両断でした。まず平和じゃないと勉強はできません。ある程度の経済的余裕がないと勉強はできません。自分の人生は自分で選べるという自由が保障された社会じゃないと勉強はできません。かつて、戦争に駆り出されて勉強を中断した若者がたくさんいました。お金がなくて上の学校に行けなかった人もいました。江戸時代などは、教育を受ける自由が百姓の子どもにはありませんでした。「平和」・「経済的な安定」・「自由」この3つが揃っている今、勉強ができるわけです。昔の人からすれば、なんて贅沢をしているのでしょうか。たとえば、1週間海外旅行をしたとします。こういう贅沢は、やればやるほどお金が消費されてしまいます。しかし、勉強という贅沢は、やればやるほど自分の脳に蓄積されていきます。



それが未来に必ず役立つし、勉強した人はどんどん魅力的な人になっていきます。こんな贅沢が他にあるでしょうか？それなのに「やる気がしない」というのであれば、「やめちまえ」というのは筋が通っています。「ぐーの音（ね）も出ない」とは、まさにこのことです。効果を高める勉強には2つあります。本を読むことと、人の話を謙虚に聞くことです。この2つが、学びの大きな柱となることを肝に銘じておきましょう。1日24時間のうち、あなたは最高の贅沢な時間として、勉強にどれくらいの時間を費やすことが出来ますか？時間の使い方は、あなた次第です！

【公立高校出願倍率は裏面に掲載！出願変更の申込みも締め切りました。あとはやるしかない】